

芸術に触れ豊かな心を育む

子どもたちの豊かな心づくりを進める「アウトリーチ事業」が、6月から市内の各小中学校で始まりました。同事業は、子どもたちが楽しみながら演劇や落語、音楽の演奏などの芸術文化に触れる機会を設け、豊かな表現力や想像力を養う目的で、毎年実施。菓子野小学校では6月21日、地元の劇団「劇団こふく劇場」による演劇公演が開催されました。のどかな野原で少年と動物たちが交流する「野原の麦わら帽子」を上演。児童らも動物役で参加し、会場は大いに盛り上がりました。



小中学校アウトリーチ事業

海外との架け橋に

JICAボランティアティアとして、アフリカに赴任する本市出身の新地弘太郎さんと久長竜太さんが6月24日、市長を表敬訪問しました。海外で貧困の現状を目の当たりにし、役に立ちたいとの思いで応募したという2人。体育の教員免許を持つ新地さんは、スポーツイベントの企画や水難救助の講習を開催したいと話しました。理学療法士の久長さんは、現地の学校で指導をしながら、趣味のサッカーでも交流を深めたいと話していました。2人の活躍を、ふるさとから応援しています。



JICAボランティア市長表敬

1秒でも早く火を消すために

消防技術の向上を目的に、2年に1度開催される操法大会が6月下旬から7月下旬にかけて、高崎総合公園などで開催されました。6月26日に開催された山之口・高城・山田・高崎方面隊合同の大会では、ポンプ車操法など3部門に45隊が出場。一秒でも早く火点を倒そうと、技術を競い合っていました。



都城市消防団操法大会

大相撲都城場所開催決定！

横綱白鵬関ら約150人の力士が取り組みを行う、大相撲都城場所の開催の契約が6月27日、市役所で締結されました。日本相撲協会の枝川親方は「市民の皆さんに、力士らの真剣な取り組みを披露したい」と話していました。同場所は12月11日(日)、早水公園体育文化センターで開催されます。



大相撲都城場所契約締結

都城の心を子どもらに受け継ぐ

霧島酒造株式会社による子どもみこし寄贈式が6月29日、市役所で行われました。同社が、創業100周年記念事業の一環として実施。江夏社長は「六月灯など、地域と子どもを結ぶ祭りが都城にはある。子どもみこしを活用して、都城の心を子どもらに受け継いでほしい」と期待を込めていました。



霧島酒造子どもみこし寄贈式

大切な一票を生かそう

7月10日執行の参議院議員通常選挙を前にイオンモール都城駅前で7月3日、有権者に投票を促す啓発活動が行われました。今回、市選挙管理委員会の初めての試みとして、7月2日～9日まで同施設に期日前投票所を開設。都城地区明るい選挙推進協議会や都城市生活学校、都城わかもの選挙協議会のメンバーらが、来店者かもの選挙協議会の平川将綺さん（南横市町）は「私たちの未来を決める大切な一票を、確実に投じてほしい」と話していました。



商業施設での選挙啓発

みこしが熱く練り歩く

都城盆地の夏を彩るおかげ祭りの本祭りが7月9日、神柱宮周りで開催されました。小雨の中、祭りを一目見ようと、多くの家族連れらが、沿道に詰め掛けました。笛や太鼓に合わせて軽快に踊る跳人（はねと）や、「どっこい、どっこい」の掛け声に合わせてみこしが練り歩くと、沿道からは歓声が上がりました。祭りの見どころであるみこし宮入りの儀では、気迫あふれるみこしの練り上げで、会場の熱気は最高潮に。見物客は、雨に濡れるのも忘れて、祭りに酔い痴れていました。



都城六月灯おかげ祭り・本祭り

楽しい夏の始まり

青井岳キャンプ場の安全祈願祭が7月1日に開催されました。関係者ら約10人が神事に参加して、開放期間中の無事を祈りました。青井岳温泉に近く、川遊びや魚釣りも楽しめる同キャンプ場は、8月末まで営業しています。この夏は、暑さから逃れて、思い出に残る楽しい夏を過してみませんか。



青井岳キャンプ場安全祈願祭

真夏の夜のカーニバル

音楽と食べ物を楽しむイベント「ジバ！ サンバ」が7月2日、道の駅都城の駐車場で開催されました。サンバチームのパフォーマンスや飲食店の出店、国際交流ブースなどを開設。音楽に合わせて踊っていた大村祐生くん（5歳・郡元一丁目）は「楽器の演奏や踊りが楽しかった」と満喫していました。



ジバ！ サンバ

地域の伝承を次世代に語り継ぐ

宮崎に伝わる神話や民話などを語り継ぐ語り部養成講座が7月9日、市立図書館で開催されました。本市出身で県立看護大学の真晴教授が「都城の神社に祭られた神々の物語」と題し、市内の神社にまつわる歴史や伝承を解説。受講者らは、由来や当時の考え方などに興味深く聞き入っていました。



語り部養成講座



風景

都城市女性農業委員
(きらりり会 会長)

山中 美代子 さん



農業、そして家庭で、地域で

「きらりり」と輝く女性になろう

2015年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰で、最高賞の農林水産大臣賞を受賞した「きらりり会」。その会長を務めるのが、山中美代子さん（高木町）です。

きらりり会は「女性ならではの活動をしたい」との思いから、女性農業委員が結成した会。女性リーダーの掘り起こしや新規就農者を応援する交流会などを、10年継続して実施していることが評価され、今回の受賞に至りました。

「女性農業委員がまず、自分たちの存在感をアピールすることが大切。会議に出席し、建設的な意見を述べ実践することで、地域で頑張る女性へ目を向けてもらえるきっかけに繋がる。それが、地域の女性たちの励みにもなる」と話す山中さん。会では、「入社式のようなはじめがないまま就農した」という若者の意見を聞き、新規就農者との交流会を開催し、会員自らが手作り料理でもてなし、門出を祝っています。

市内の女性農業従事者は、全体の半数を占め、農畜産業において重要な役割を果たし、6次産業化の担い手としても大きく期待される存在です。中でも山中さんは、農業委員で初めて、地区から推薦された女性委員の一人。地区の人の思いを受けて、農家の発展のために、貢献しようと



心掛けています。

高木町内の農事組合法人の理事として設立当初から運営に携わり、6次産業化商品の加工班リーダーも務める山中さん。メンバーと話し合い、法人で生産した安心・安全な野菜を、無駄なくおいしく食べてもらおうと、まごころ込めて開発した惣菜を対面販売しています。

さらに、山中さんは、食育ティーチャーターとして食育にも取り組んでいて、子ども達と触れ合いながら、食の大切さを伝えていきます。

「前だけを見て進んできた。農業だけでなく家庭や地域でも頼りにされる、きらりと光る存在でありたい」と思いを話していました。



つなぐ 都城の伝統工芸

Vol.2

都城の技「さつま緋」

シリーズ第2弾は、**紬の綿織物**の**さつま緋**(がすり)**(県指定の伝統工芸品)**を紹介。都城の本場大島紬の技術を応用してつくられる、国内最高の綿織物として知られています。

新たに生まれた精密な美

昭和30年頃、都城絹織物事業協同組合の(有)東郷織物が、新たな製品を模索する中で作り出したさつま緋。さつま緋は、本場大島紬の技術を基に、着物の用木綿糸としてはもともと細い糸が使われ、薄手で細かい紬模様の滑らかな生地仕上げられています。藍染めのしつかりとした染めの技術が定評で、普段使いの着物として親しまれています。



技を受け継ぐ職人

本場大島紬と同じ工程で製作されるさつま緋。藍染めの工程では、40〜50回も藍染めを重ねます。この工程には、県の伝統工芸士の認定を受けた職人もいます。

次に、精巧な緋の元となる**締機**の工程を経て、熟練の機織り職人の手で、一織り一織り丹精込めて織られ、反物に仕上げられます。

織物産業は、生活様式や雇用環境などの変化で、販売シェアは低下し、伝統工芸の礎である職人の高齢化に加え、後継者不足の状況にあります。

しかし最近、伝統工芸に興味を持つ若い人が全国から工房を訪れ、伝統の技を受け継ごうと奮闘する姿が見られます。

◎問い合わせ みやこんじょPR課 ☎23-2615



盆地生まれの元気をいただきます!



スタミナたっぷり 卵のニラあんかけ

一日に5皿の 野菜料理を食べよう!

※一人分146Kcal、塩分1.0g



ニラには、**硫化アリル**という成分が含まれ、**食欲増進**や**消化酵素の分泌**を促します。また、**ビタミンB1**の吸収を高める重要な働きもあります。

●材料(4人分)

ニラ	80g	A	溶き卵	4個分
鶏ガラスープ(顆粒)	小1		片栗粉	大2/3
湯	200cc		コショウ	少々
サラダ油	大2	B	オイスターソース	大1/2
			片栗粉	小1
			醤油	小1

●下準備

ニラ…1cmの長さに切る
湯に鶏ガラスープを溶かす。70ccはAと混ぜ、残りをBと混ぜておく

●作り方

- ①フライパンに、サラダ油大1と1/2を熱し、Aを入れてへらで大きく混ぜ、火が通ったら皿に出す
- ②残りのサラダ油大さじ1/2を熱し、ニラを炒める。Bを加えて煮立ててとろみがついたら、皿に盛った①にかける



ニラは、水がかかると傷みやすいので、使う直前に洗いましょう。また、加熱しすぎると歯で応えも色も悪くなるので、炒める時はさつと火を通します。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765